

別紙

国立大学法人広島大学東広島団地温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

東広島団地

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市鏡山1丁目3番2号

(3) 業種

大学 8161

(4) 従業員数

13,184人 (教員 1,216人 その他職員等 525人+85人 学生数11,358人)

(5) 事業所位置図

別紙 (団地配置図) のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は平成25年度 (2013) を基準年度とし、平成26年度 (2014) から平成28年度 (2016) までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

本学は、教育研究施設の事業所であり、広大な敷地内に建物も多くあり環境保全も運営の重要課題と位置付け、環境に配慮した業務活動に努め、環境への負荷低減を推進することにより、持続可能な地球環境づくりに貢献します。特に今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、教職員を始め本学構成員全員の省エネ意識の高揚のための周知活動及び資源ゴミの排出量削減・資源ゴミの再利用を徹底し、環境への負荷軽減対策を行い、温室効果ガスの抑制に努めていきます。

2. 方針

- 省エネルギー・省資源の推進
- 新エネルギー導入促進
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の促進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 構成員等への環境保全協力の徹底と教育指導

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成25年度
二酸化炭素	燃料の使用 (A重油・LPG)	/	33,513	
	他人から供給された電気の使用			
合 計				33,513

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素		/	/	/
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン		/	/	/
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：延床面積m²

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 28年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	33,513	339,283	0.0987	3.0	32,517	339,283	0.0958
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	11,628	339,283	0.03427	3.0	11,282	339,283	0.03325
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は原単位ベース年1%の削減率						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	エネルギー（燃料と電気）使用のCO2排出量原単位を前年度比1%削減	重油消費量の削減。 冷暖房負荷の軽減対策の徹底
2	電気使用量の削減	エネルギー（燃料と電気）使用のCO2排出量原単位を前年度比1%削減	高効率変圧器及びLED照明器具の導入 LED外灯の導入 空調機の省エネ型への更新 太陽光発電設備の導入推進 冷暖房時の室内温度設定の適正管理 冷暖房器具の無人運転化の禁止周知 休憩時間帯の消灯・運転停止の徹底 一斉休暇促進、定時退庁の励行 休日・夜間のエネルギー使用の自粛 省エネ型実験装置の導入促進
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

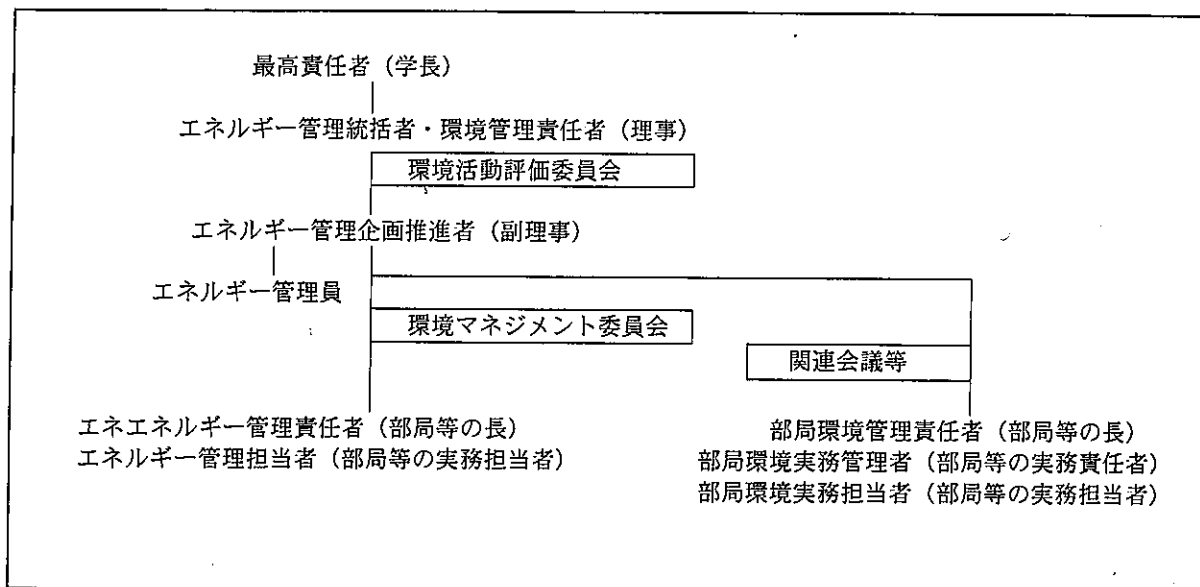
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	上水使用量の削減及び廃棄物排出量の削減	水道使用量の削減（2012年度比） 可燃ゴミの削減（2012年度比） コピー用紙使用量の削減（2012年度比）	節水器具導入・注意喚起 再資源可能な古紙等の資源化を徹底し 可燃ゴミの削減 講義・会議等資料の削減 両面コピー推進と裏面活用
2	環境教育及び環境研究の推進		環境関連講義の実施による意識高揚 環境関連研究の促進
3	自然環境の保全活用		植生管理、実験生態園等の散策路整備 山地の利用検討、ビオトープ等の維持管理

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・学内エネルギー管理規則に基づき、各部局等ごとにエネルギー管理責任者及びエネルギー管理担当者を中心として、部局等の実情に即した実務面での省エネ推進活動を実施する。
- ・エネルギー管理統括者またはエネルギー管理企画推進者等における部局等の省エネパトロールを実施し、より効果的な省エネ推進の助言と対策依頼を行う。
- ・半期毎に各部局等のエネルギー使用状況及び省エネ推進達成状況を公表し、省エネへの意識高揚と周知徹底を行う。
- ・環境部門においては、学内環境マネジメント規則に基づき、全学としての取り組みを継続する。

(3) 計画書等の公表

- ・環境目標及び削減計画等については、学内関連会議等による周知と学内電子掲示板による公表。
- ・環境全般に関する計画については、内容は毎年作成の環境報告書により公表。
- ・エネルギー消費状況等については、半期毎に関連会議等での報告と学内電子掲示板による公表。